

萩原朔太郎賞決定

佐々木幹郎さんの『明日』に

ことしの萩原朔太郎賞は、佐々木幹郎さんの『明日』に決定。ここでは佐々木さんのプロフィールや受賞コメントなどを紹介します。賞の贈呈式と記念対談は、12月1日(土)に前橋文学館で行います。

問い合わせは 文化国際課 ☎ 898-6522



萩原朔太郎賞とは

市制施行100周年を記念して始まった萩原朔太郎賞。本市出身の詩人・萩原朔太郎の業績を広めるため、ことし1年間に出版された最も優れた現代詩集に賞を贈っています。

受賞コメント

小雨の降る浅間山の山麓にある山小屋で、受賞の知らせをいただきました。東京で知らせを受けるのではなく、群馬県で知らされたことがとてもうれしい。2日前の9月1日、この山小屋で音楽コンサートを開いたとき、友人が詩集の表題作「明日」を朗読してくれ、また、若い友人たちがこの詩を歌ってくれました。まだその声の余韻が山小屋に

は残っています。

詩集『明日』を最後に編集したのは、3・11の東日本大震災以降、東北の被災地を訪ねた後のこと、岩手県平泉町にある中尊寺の境内でした。金色堂の見える椅子に座って、最終的に詩篇の並びを決めました。青春時代から敬愛していた萩原朔太郎の名を冠した賞をいただけるのは、何よりもありがたいことです。



佐々木幹郎さんのプロフィール

昭和22年、奈良県生まれ。同志社大中退。詩人。高校時代から詩を書き始め、昭和45年に第一詩集『死者の鞭』で詩壇にデビューし、詩集『蜂蜜採り』で高見順賞を受賞。その他の詩集に『砂から』『悲歌が生まれるまで』がある。また、評論『近代日本詩人選16 中原中也』でサントリー学芸賞、随筆『アジア海道紀行』で読売文学賞を受賞するなど評論や随筆でも高い評価を得ている。

明日

明日
いつもと違う匂い
明日
シクラメンが桃色の花を咲かせて
明日
放射能の入った 天からの貰い水を飲むだろう
明日
大地が揺れて 冷えて 凍りついても
明日
それでも 生きている
明日
恐怖が底のない桶のように固まり わたしたちを貫いても
明日
揺れて割れる 地球の上で
明日
花のように大地の毒を吸い上げる わたしたちは
明日
何もかもを失くしても
明日
チューリップは 泥だらけの緑の葉を膨らませ
明日
赤黄白と いっせいに蕾を開く
明日
笑顔で 生きている
明日
どこかで誰かと出会うことを願って
明日
ヒマワリの種を植える
明日
いつものように 窓のカーテンを開けて
明日
太陽の光で部屋を満たす
明日
地球の上で生きる いつものように
明日
目覚めたとき

最終候補5作品

佐々木幹郎さんの詩集『明日』は、9月3日の選考委員会で、最終候補5作品の中から選ばれました。この作品は、親族の死やモンゴル・ネパールなどへの旅行、東日本大震災など、作者の日常をテーマにした21編を収録。自然体の言葉でつづり、誰もが共感を持てる作品となっています。選考委員と最終選考に残った候補作品や作者などは次のとおりです。

■選考委員

敬称略(50音順)
岡井隆(歌人・医師)、高橋源一郎(作家・評論家)、平田俊子(詩人・作家)、松浦寿輝(詩人・小説家)、吉増剛造(詩人)。

■候補作品・作者・出版社

敬称略(作品は発刊順)



萩原朔太郎像

前橋文学館情報

問い合わせは
前橋文学館 ☎ 235-18011

- 【「モードな日」野村喜和夫(思潮社)、『明日』佐々木幹郎(思潮社)、『飛ぶ男』木村迪夫(書肆山田)、『死について』辻井喬(思潮社)、『にせもの』大江麻衣(紫陽社)】
- 【講座「東宮七男を語る」】日時①10月13日(土)②11月24日(土)③来年2月2日(土)、午後1時30分〜3時 対象①どなたでも、先着各30人
- 【講師・内容①は詩人・梁瀬和男さん「三冊の詩集と私的な回想」②は詩人・久保田穰さん「ひとすじの魂を持った詩人」③は同館学芸員・津島千絵「ロマンとリアルとユーモア」と】
- 【若い芽のポエム作品展】期日①11月4日(日)まで 期日②10月6日(土)〜11月18日(日)

直接

申し込み①各開催日に会場へ

贈呈式・記念対談

萩原朔太郎賞の贈呈式を開催。また、佐々木幹郎さんと第1回受賞者谷川俊太郎さんを招いて記念対談を行います。

日時=12月1日(土)午後1時30分

会場=前橋文学館

対象=一般、先着80人

申し込み=10月9日(火)から文化国際課☎

898-6522へ



前橋文学館